

放課後等デイサービス 事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和 4年 3月 15日

事業所名 こども館あいいる

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、改善目標など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%		身体を動かす場所や落ち着いて取り組む場所を分けるなどの工夫をしている。
	②	職員の配置数は適切である	80%	20%	加配を取っているため適切だと考えられる。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	60%	40%	トイレに手摺の設置をしている。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	80%	20%	月1の職員会議を行い、職員と参画している。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%		実施している。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	20%	80%	今回からホームページ等で公開する。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている業所の会報やホームページ等で公開している	20%	80%	まだ実施していないため、今後の課題である。
適切な支援の提供	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	40%	60%	研修は行っている。専門性の研修は今後取り組む予定となっている。
	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%		ガイドラインに基づいてアセスメントを行っている。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	80%	20%	ガイドラインに基づいてアセスメント表を作成して使用している。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%		担当を決め立案を行い、その後職員会議等で修正を行っている。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%		月ごとに活動予定表や週案を作り工夫している。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	80%	20%	平日や休日は宿題等の課題を決め、長期休暇は細かな課題を設定している
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%		子どもの状況に応じて対応を行っている。集団活動は必ず取り入れている。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	80%	20%	毎朝、朝礼等で内容、役割分担について確認を取っている。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	60%	40%	支援終了後は送迎等で戻れない職員もいるため、次の日の朝礼にて共有を行っている。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%		パソコン等を使用し記録に努めている。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	80%	20%	モニタリングを行い、見直しが必要かどうか判断している。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	100%		複数の活動を展開している。今後も様々な活動を展開していきたい。
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%		事例がないが、機会があれば参画したいと考えている。
	㉑	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	80%	20%	学校との情報共有を行っている。

関係機関や保護者との連携	②②	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	20%	80%	該当者が現状いません。
	②③	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	20%	80%	実績がありません。
	②④	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		100%	実績がありません。
	②⑤	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	80%	20%	連携し、助言を受けている。
	②⑥	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		100%	現状、機会がありません。
	②⑦	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	60%	40%	参加するよう心掛けている。
	②⑧	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%		連絡ノートや送迎の際に保護者と共通理解を持っている。
	②⑨	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っている		100%	ペアレント・トレーニング等の支援は行っていない。
保護者への説明責任等	③⑩	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	60%	40%	契約の際に行っている。
	③⑪	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	60%	40%	送迎の際や計画書の説明の際に助言や支援ができるよう努めている。
	③⑫	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		100%	現状、機会がありません。
	③⑬	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	80%	20%	マニュアルに従い、迅速かつ適切に対応できるよう努めている。
	③⑭	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%		ブログ等のSNSにて活動についての情報配信を行っている。
	③⑮	個人情報に十分注意している	100%		守秘義務に関する事項を雇用の際に話を行っている。
	③⑯	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%		子どもの状況に応じて配慮を行っている。
	③⑰	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		100%	現状、機会がありません。
非常時等の対応	④⑱	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%		マニュアルを策定し、周知を行っている。
	④⑲	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		100%	年に2回行うことになっている。
	④⑳	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	80%	20%	マニュアルを基に研修や委員会を行っている。
	④㉑	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%		契約の際に説明を行っている。
	④㉒	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	60%	40%	該当者が現状いません。
	④㉓	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	80%	20%	都度作成を行い、共有を行っている。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。